



蒲生野

令和6年度 第6号
令和7年1月7日発行
京丹波町立蒲生野中学校

●みなさん、新年 明けましておめでとうございます。まずは、令和7年がみんなにとって良い一年になることを願います。●いよいよ今年度の締めくくりの時期になります。特に3年生は、蒲生野中学校の3年間で身につけてきた個人や集団の力が問われる最後の難所を迎えます。一人一人の進路実現をみんなの力で乗り切って欲しいと思います。●さて、2学期の終業式で、認知能力と非認知能力の話をしました。認知能力は、教科的な力、学力。非認知能力は、人としての力、人間力。これからの社会で求められるのは、知識を身に付けるだけでなく、その知識を使って、新しいアイデアなど、新しいものを創り出す力が求められています。社会が求めているものを見つけ出し、それを創り出して、みんなに提供する。まさに、みんなが探究学習でやってきたことそのものです。将来社会に出て幸せに生きていくためには認知能力も非認知能力もどちらの力も大切。だからこそ、「自分の良さ」を大切にしながら様々なことにチャレンジして行って欲しいと思っています。●自分たちで考えて、学校を運営していく力を付けて欲しいと思っています。学校という小さな社会で大人になったときのトレーニングをしています。そのためには、いろんなことを任せていきたいし、任せられると思っています。任せられるということは、信頼されているということです。言われたことをやるだけの方が楽だし簡単ですが、楽しくないし、それでは何の力も付きません。みんなが義務教育最後の中学校で付けるべき力は、「将来社会に出て自分の足で幸せに生きていける力」です。多少面倒でも自分たちでやらないと力は付きません。失敗しても良いし、失敗した方が成長できるかも知れません。恐れずチャレンジしてみることです。目先の「楽しさ」に流されず、みんなが社会の一員になったときに、「社会を運営していける力」「より良い方向に社会を修正していける力」を身に付けて欲しいと思っています。一緒により良い蒲生野中学校を創っていきましょう！●どの学年も「最高の蒲生野中学校」の実現に向けて、今まで本当によく頑張ってきたし、達成できていると思っていますが、「まとも」がなければ達成できないと思います。●みんなで「最高の蒲生野中学校」を創り上げるキーワードは、「みんなが楽しくて安心できる学校」です。頑張りましょう！

●保護者の皆様 新年、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。●本年が皆様にとって素晴らしい一年になりますように！

校長 人見 平安

読書コーナー

●僕が冬休みに読んだ本は、蒲生野中学校前の中央公民館2階にある京丹波町図書館中央館で借りました。最近ハマっている2人の芥川賞作家の小説 中村文則著『悪意の手記』と平野啓一郎著『高瀬川』に加えて、真山仁著『疑う力』という新書を借りました。●これらの小説は少し難しいかも知れませんが、『疑う力』は、噂に流されず、自分の頭で「本当にそうかな？」と色々な角度から考えて「本質」に近づく、いわゆるクリティカル・シンキングの本です。良かったらチャレンジを！●今回のお薦めは、先日、大学生の娘に薦められた瀬尾まいこさんの本は何でも読みやすく面白いです。●読書が苦手な人は、自分の趣味に関係する本や読みやすい本から始めれば、読書の楽しさに気付けるかも知れません。一度、安田先生に相談してみても良いかも知れませんよ！（安田先生は、読書指導員さんでもあります！！）

～読書の冬～ 蒲生野中学校の図書室はもちろん、京丹波町図書館も利用しよう！